

教科名	国語	週時間数	4 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 「国語I」 光村図書 / 「中学書写」 光村書店 副教材 「国語スイッチ」 正進社/ 「学習漢字ノート」 浜島書店 「役立つ文法」 正進社				

国語科 の目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。 ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うことができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・授業中の提出物 ・定期テストや漢字テスト等
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにできる。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の提出物 ・授業中の発言、様子 ・定期テストや漢字テスト等
学習の主体的に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の提出物 ・授業・単元のふりかえり ・提出物
学習方法	・言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになる。 ・積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ・便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。 ・仲間に尋ねるなど丁寧にに関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ・配布されたプリント等を整理し、その都度ノートに貼り、復習につとめよう。 ・漢字は漢字テストの機会に何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ・宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ・教科書を何度も読み、ワークを使いながら、基本となる重点ポイントを理解しよう。 ・読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	詩	朝のリレー	・詩の構成や表現の効果について考えながら、情景を想像して音読する。
		物語	はじまりの風	・場面の展開に沿って変化する、登場人物の心情について話し合う。
	5	聞く	情報を聞き取り、要点を伝える	・目的や場面に応じて話を的確に聞き取り、必要な情報をメモに取る。そのメモを基に内容を整理して相手に伝える。
	6	話す・聞く 説明文 説明文 書く	話の構成を工夫しよう ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 情報を整理して説明しよう	・話の構成を工夫しスピーチをする。 ・文章の内容を捉え、筆者の説明の仕方について考える。 ・筆者の主張と事例との関係を整理し、要旨を捉える。 ・事実や考えを相手にわかりやすく伝えるために、情報を整理し、取捨選択し、まとめ方等を工夫して文章を書く。
	7	詩・解説文 解説文 文法	空の詩 三編 比喻で広がる言葉の世界 言葉のまとまりを考えよう 情報収集の達人になろう	・詩の情景を想像し、表現の効果を考える。 ・比喻について理解し、生活への生かし方を考える。 ・文法の定義とその必要性、言葉の単位について理解する。 ・情報の読み取りと整理の仕方を理解し、著作権に注意しながら、「行動宣言」をまとめる。
2	9	物語	・大人になれなかった弟たちに…	・登場人物の置かれた状況を踏まえて、行動や風景の描写を基に、心情を捉える。
		小説	・星の花が降るころに	・図などを用いて、場面や描写の結びつき捉え、作品を解釈する。
		書く	・項目を立てて書こう	・目的や相手に合わせて必要な情報を考え、項目ごとに整理して案内文を書く。
	10	話す・聞く	・聞き上手になろう	・対話を充実させるために、話の聞き方や、質問の仕方を学ぶ。
		知識・技能	・漢字の音訓	漢字の「音」「訓」の歴史や性質について理解する。
		記録文	・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	・文章の構成や展開の効果を考え、根拠を明確にしてまとめよう。
	11	書く	・根拠を明確にして書こう	・身近なテーマについて統計資料を引用し、調べたことや考えたことをわかりやすく伝えるレポートを書く。
		文法	・言葉の関係を考えよう	・文節どうしの関係について理解する。
		詩	・大阿蘇	・情景を思い浮かべたり、言葉の響きリズム和味わったりしながら朗読をする。
	12	古文	・古典の世界	・仮名遣いに注意しながら音読して古典のリズムを味わいその世界に親しむ。
		古文	・蓬萊の玉の枝―「竹取物語から」	・作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する
		漢文	・今に生きる言葉	・故事成語について知り、自分の生活と結びつけて考える。
		意見文	・「不便」価値を見つめなおす	・本文を要約して筆者の主張を捉え、自分の考えをまとめる。
		話す・聞く	・話題や展開を捉えて話し合おう	・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。
		書写	・書初め	・楷書の特徴や書き方を知る
3	1	小説	・少年の日の思い出	・別の人物の視点から作品を捉え、登場人物のものの見方を考えよう。
	2	随筆	・二十歳になった日	・筆者独自のものの見方、感じ方を捉え、随筆を読み味わおう。
		文法 書く	・単語の性質を見つけよう ・構成や描写を工夫して書こう	・単語の分類を知り、それぞれの性質について理解する。 ・これまでの体験を振り返り、自分にとっての意味を考えて、随筆を書く
	3	話す・聞く・書く	・1年間の学びを振り返ろう	・1年間で学んだことを振り返り、気づいたことを発表する。

教科名	国語	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 「国語2」 光村図書/「中学書写」 光村図書 副教材 「国語の学習2」 浜島書店/学習漢字ノート 浜島書店 「新しい文法ワーク」 明治図書				

国語科 の目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うことができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・授業中の提出物 ・定期テストや漢字テスト等
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の提出物 ・授業中の発言、様子 ・定期テストや漢字テスト等
主体的に 学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使用しようとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の提出物 ・授業・単元のふりかえり ・提出物
学習方法	・言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになろう。 ・積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ・便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。 ・仲間に尋ねるなど丁寧にに関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ・配布されたプリント等を整理し、その都度ノートに貼り、復習につとめよう。 ・漢字は漢字テストの機会に何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ・宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ・教科書を何度も読み、ワークを使いながら、基本となる重点ポイントを理解しよう。 ・読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	・詩 ・小説	・見えないだけ ・アイスプラネット	・作品のイメージを広げて朗読する。 ・登場人物の設定を図を用いて整理し、人物像や人物同士の関係を読み取る。
	5	・話す・聞く ・文法	・意見を聞き、整理して検討する ・単語をどう分ける	・音声を聞き、意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを検討する。 ・自立語について、分類の観点や各品詞の性質などを理解する。
		・話す・聞く	・魅力的な提案をしよう	・資料や機器を効果的に使って、聞き手の心を動かすプレゼンテーションを行う。
	6	・古文 ・報告文	・枕草子 ・クマゼミ増加の原因を探る ・情報を整理して伝えよう	・作者のものの見方や、感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣と比較する。 ・文章の構成や図表との関係に注意して読む。 ・興味のある職業の魅力などについて調べ、職業ガイドを作る。
	7	・短歌・解説文	・短歌に親しむ	・短歌の情景や心情を描写する語句に着目し、語感を磨く。
	9	・小説 ・随筆 ・書く	・ヒューマノイド ・字のない葉書 ・表現を工夫して書こう	・過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考える。 ・文章の構成や、人物や出来事を語るときの表現から、筆者の思いを考える。 ・相手や目的に応じて通信手段を選び、自分の思いや要件が的確に伝わるように表現を工夫して書く。
	10	・文法 ・話す・聞く ・論説文 ・書く	・敬語 ・聞き上手になろう ・モアイは語るー地球の未来 ・適切な根拠を選んで書こう	・敬語の働きや種類を理解し、適切な使い方について考える。 ・話の展開に注意して、効果的な質問を考え、インタビューをする。 ・文章の構成や論理の展開を吟味し、自分の考えを文章にまとめる。 ・適切な根拠を選び、構成を工夫して、自分の意見が伝わる文書を書く。
2	11	・詩 ・古文 ・古文 ・漢文 ・評論文	・月夜の浜辺 ・平家物語一扇的 ・仁和寺にある法師ー徒然草から ・漢詩の風景 ・君は「最後の晚餐」を知っているか	・詩の中の表現の工夫に着目して詩を味わい、詩の世界を豊かに想像する。 ・作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しみ、登場人物の言動に現れたものの見方や考え方を捉える。 ・読み取った内容かを自分の経験と結び付け、作者のものの見方について考える。 ・漢詩に書かれた情景や心情、構成や表現の効果を考える。
	12	・文法 ・話す・聞く ・書く	・走る。走らない。走ろうよ。 ・立場を尊重して話し合おう。 ・行書	・動詞、形容詞、形容動詞の活用について理解する。 ・立場を決め、互いの立場を尊重しながら討論することを通じて、自分の視野を広げる。 ・行書の特徴や書き方を知る。
	1	・小説	・走れメロス	・観点を選んで分析し、自分が感じた作品の魅力を伝えよう。
	2	・書く ・文法	・描写を工夫して書こう ・一字違いで大違い	・これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にしながら、場面や人物の心情が生き生きと伝わるように描写を工夫して書く。 ・助詞、助動詞について理解する。
	3	・書く・話す・聞く	・国語の学びを振り返ろう	・「国語を学ぶ意義」について語り合い、クラスで交流をする。

教科名	国語	週時間数	3 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 「国語3」 光村図書/「中学書写」 光村図書 副教材 「国語スイッチ3」 正進社/「国語便覧」 浜島書店 「新しい文法ワーク」 明治図書				

国語科 の目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合うことができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・定期テストや漢字テスト等
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・定期テストや漢字テスト等
主体的に 学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・提出物
学習方法	・言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになろう。 ・積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ・便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。 ・仲間に尋ねるなど丁寧にに関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ・配布されたプリント等を整理し、その都度ノートに貼り、復習につとめよう。 ・漢字は漢字テストの機会に何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ・宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ・教科書を何度も読み、ワークを使いながら、基本となる重点ポイントを理解しよう。 ・読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	詩	世界はうつくしいと	・ 語句の意味や詩の構成に着目して内容を捉え、詩を読み深める
	5	小説 話す・聞く	握手 意見を聞き、適切さを判断する	・ 人物像を捉え、その生き方について考えを深める ・ 意見とその根拠を聞き、観点に沿って適切さを判断する
		文法への扉1	「走って」いるのは誰？	・ 文法の学習で得た知識や考え方を日常の言語生活に生かす方法について理解する
	6	説得力のある構成を考えよう	スピーチで心を動かす	・ 聞き手を説得できるように話の構成や表現の仕方を考える
		言葉1	相手や場に応じた言葉遣い	・ 相手や場に応じた言葉遣いについて理解し適切な表現を選ぶ
	7	漢文	学びて時に之を習ふ	・ 人間の生き方についての孔子の考え方を自分達と関連付けて考える
		論説 思考のレッスン 論理の展開を意識して書こう	作られた「物語」を超えて 具体化・抽象化 グラフを基に小論文を書く	・ 論理の展開における具体と抽象の関係を捉える ・ 具体と抽象の関係に注意して文章を読んだり書いたりする ・ 考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して小論文を書く
2	9	俳句 随筆 言葉2 情報整理のレッスン 読書	俳句の可能性、俳句を味わう 言葉の釣り糸を垂らす 和語・漢語・外来語 情報の信頼性 読書を楽しむ	・ 作者の表現意図を考え、表現の仕方を評価する ・ 文章に表れた筆者のものの見方や考え方について考える ・ 和語・漢語・外来語について理解を深める ・ 情報の信頼性を確かめる方法を理解し活用する ・ 読書活動を通して様々な読書の楽しみ方や意義を発見する
	10	詩 小説	挨拶 故郷	・ 現代社会の状況と重ね合わせながら考えを深める。 ・ 批判的に読み、時代や社会の中で生きる人間の姿について考える
		推敲 言葉3 聞き上手になろう	論理の展開を整える 慣用句・ことわざ・故事成語 質問で相手の思いに迫る	・ 目的や読み手に応じて意見文を推敲する ・ 理解を深め語句の意味を調べたり語句を用いて短文を作る ・ 話の展開を予想しながら聞き、質問で話を引き出す
	11	論説 考えを効果的に伝えよう	複数の意見を読んで、考えよう 多角的に分析して批評文を書く	・ 論説の比較を基に討論し、自分の考えをまとめる ・ 対象を多角的に分析し説得力のある批評文を書く
		文法への扉2	「ない」の違いがわからない？	・ 中学校三年間で学習した文法についての知識を整理する
	12	詩 古典	初恋 和歌の世界(古今和歌集) 君待つと(万葉・古今・新古今)	・ 言葉の響きやリズムを味わいながら聴き、語彙を豊かにする ・ 表現の特徴や和歌に詠まれた古人の心情や情景について話し合う
3	1	論説 話し合い 話し・聞く	夏草(おくのほそ道) それでも、言葉を 話し合いを効果的に進めよう 合意形成に向けて話し合おう	・ 作者のものの見方や感じ方を捉え心に響く俳句を発表する ・ 筆者の見方、考え方を踏まえ言葉について自分の意見をもつ ・ 効果的に話し合いを進めるために必要な工夫を学ぶ ・ 身近な課題を解決するために、合意形成を目指して話し合う
		随筆	温かいスープ アラスカの出会い 律儀な桜	・ 国際社会における人と人との関係について考えを深める ・ 人との出会いや人生について考えを深める ・ 人、自然、時とともに変わるもの変わらないものに思いを馳せ自分の考えをもつ
		詩	わたしを束ねないで	・ 詩の中の言葉や表現から作品のもつメッセージを捉え、未来に向けて自分の可能性について考える
	2	三年間の歩みを振り返ろう	冊子にまとめて、発表会をする	・ 三年間の学びを振り返って冊子にまとめ発表会を開く
	3			

教科名	数学	週時間数	4時間	学年	1年
使用教科書 副教材等	教科書 未来へひろがる数学Ⅰ（啓林館） 副教材 数学リピート学習Ⅰ（正進社） 確認から発展へ 3（学宝社）				

数学科の 目標	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に 考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態 度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図 形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについ ての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・ 処理したりする技能を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字 を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構 成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直感的に 捉え、論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数 関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、 データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して 判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりす る力を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
主体的に 学習する 態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数 学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返 って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・宿題、ワークなどの提出物 ・定期テスト
学習 方法	・最も大切なことは、授業に集中し、先生の話をしっかり聞くこと。授業中、分からなかった問題は質 問し、できるだけ早く理解し、解決しておく。 ・授業中の問題演習に挑戦し、答え合わせの時には積極的に挙手して発表できるとよい。 発表の時には、根拠やそうなる理由をしっかり述べることが大切である。解き方だけを求めるので はなく、なぜそうなるのかを考えることで数学が楽しくなり、理解が深まる。 ・その日に学習した内容や問題を家庭で復習する。まずはノートにまとめた用語や公式を押さえる。そ して、学校で使用しているワークを使い、学校で学習したところの問題を解く。解き方が分からない 場合は、教科書や授業のノート、ワークの解答・解説で確認する。それでも分からない場合は、友達 や教師に質問し、理解できるまで学習を進める。これらの学習を繰り返す行う。 ・学校で使用しているワークの問題が理解できるようになったら、新たな問題集にもチャレンジする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション		
	5	1章 正の数・負の数	1. 正の数・負の数 2. 正の数・負の数の計算 3. 正の数・負の数の利用	・正の数と負の数の必要性和意味を理解する。 ・正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。
	6	2章 文字の式	1. 文字を使った式 2. 文字式の計算	・文字を用いることの必要性和意味を理解する。 ・文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知る。 ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることができる。
	7			
2	9	3章 方程式	1. 方程式 2. 方程式の利用	・方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ・等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 ・簡単な一元一次方程式を解くことができる。 ・一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。
	10	4章 変化と対応	1. 関数 2. 比例 3. 反比例	・関数関係の意味、比例・反比例について、座標の意味を理解する。 ・比例・反比例を表、式、グラフなどに表し、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例・反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	11		4. 比例、反比例の利用	
	12	5章 平面図形	1. 直線と図形 2. 移動と作図 3. 円とおうぎ形	・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解する。 ・平行移動、対称移動、及び回転移動について理解する。 ・基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。
3	1	6章 空間図形	1. 立体と空間図形 2. 立体の体積と表面積	・空間における直線や平面の位置関係を知ることができる。 ・柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。
	2			
	3	7章 データの活用	1. ヒストグラムと相対度数 2. データにもとづく確率	・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する。 ・データを表やグラフに整理し、データの分布の傾向を読み取ることができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現することができる。

教科名	数学	週時間数	3時間	学年	2年
使用教科書 副教材等	教科書 未来へひろがる数学2（啓林館） 副教材 数学リピート学習 2（正進社） 新・計算の基礎練習帳（創育・吉野教育図書）				

数学科の 目標	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・文字を用いた式と連立方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理 ・法則などを理解している。 ・事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・授業中の発言、問題演習の様子 ・定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	・文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し、表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。	・授業中の発言、問題演習の様子 ・定期テスト、小テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。	・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト ・宿題、ワークなどの提出物
学習方法	・最も大切なことは、授業に集中し、先生の話をしっかり和聞くこと。授業中、分からなかった問題は質問し、できるだけ早く理解し、解決しておく。 ・授業中の問題演習に挑戦する。答え合わせの時には、問いの全体は分からなくても、小発問に対して、考えて分かるところを発表できるとよい。 発表の時には、根拠やそうなる理由をしっかりと述べるのが大切である。解き方だけを求めるのではなく、なぜそうなるのかを考えることで数学が楽しくなり、理解が深まる。 ・その日に学習した内容や問題を家庭で復習する。まずは授業プリントの記述を押さえる。そして、学校で使用しているワークを使い、学校で学習したところの問題を解く。解き方が分からない場合は、教科書や授業プリント、ワークの解答・解説で確認する。それでも分からない場合は、友達や教師に質問し、理解できるまで学習を進める。これらの学習を繰り返し行う。 ・学校で使用しているワークの問題が理解できるようになったら、新たな問題集にもチャレンジする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション		
	5	1章 式の計算	1. 式の計算 2. 文字式の利用	・整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え、説明することができる。 ・指示された文字について等式変形することができる。
	6	2章 連立方程式	1. 連立方程式 2. 連立方程式の利用	・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解する。 ・連立方程式を解くことができる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。
	7	3章 一次関数	1. 一次関数とグラフ	・一次関数について理解する。 ・一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することができる。
2	9		2. 一次関数と方程式 3. 一次関数の利用	・二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	10	4章 図形の調べ方	1. 平行と合同 2. 証明	・平行線や角の性質を理解する。 ・多角形の角について性質を見いだすことができる。 ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解し、三角形の合同の証明を完成することができる。
	12	5章 図形の性質と証明	1. 三角形 2. 四角形	・三角形の合同条件などを基にして、三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだすことができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。
3	1			
	2	6章 場合の数と確率	1. 場合の数と確率	・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解する。 ・同様に確からしいことに着目し、確率を求め、不確定な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	3	7章 箱ひげ図とデータの活用	1. 箱ひげ図	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解する。 ・データを整理し、箱ひげ図で表すことができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、考察して判断することができる。

教科名	数学	週時間数	4時間	学年	3年
使用教科書 副教材等	教科書 副教材	未来へひろがる数学3（啓林館） 数学リポート学習 3（正進社） 確認から発展へ 3（学宝社） 新・計算の基礎練習帳（創育・吉野教育図書）			

数学科の 目標	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y = ax^2$、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や軽量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
学習に主体的に取り組む態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。	・ノート、計算練習のノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト ・宿題、ワークなどの提出物
学習方法	・最も大切なことは、授業に集中し、先生の話をしっかり和聞くこと。授業中、分からなかった問題は質問し、できるだけ早く理解し、解決しておく。 ・授業中の問題演習に挑戦し、答え合わせの時には積極的に挙手して発表できるとよい。発表の時には、根拠やそうなる理由をしっかりと述べるのが大切である。解き方だけを求めるのではなく、なぜそうなるのかを考えることで数学が楽しくなり、理解が深まる。 ・その日に学習した内容や問題を家庭で復習する。まずはノートにまとめた用語や公式を押さえる。そして、学校で使用しているワークを使い、学校で学習したところの問題を解く。解き方が分からない場合は、教科書や授業のノート、ワークの解答・解説で確認する。それでも分からない場合は、友達や教師に質問し、理解できるまで学習を進める。これらの学習を繰り返し行う。 ・学校で使用しているワークの問題が理解できるようになったら、新たな問題集にもチャレンジする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション		
	5	1章 式の展開と因数分解	1. 式の展開と因数分解 2. 式の計算の利用	- 多項式と単項式の乗法や多項式の積の展開の仕方について理解し、その計算に習熟する。 - 因数分解の意味を理解し、共通因数をくり出したり乗法の公式を利用したりして、多項式を因数分解することができる。
	6	2章 平方根	1. 平方根 2. 根号をふくむ式の計算 3. 平方根の利用	- 数の平方根の意味や根号を使った表し方、平方根の大小など、平方根について理解することができる。 - 根号をふくむ式の乗法、除法や式の変形、根号をふくむ式の和と差や、根号をふくむ式の積の計算ができる。
	7	3章 二次方程式	1. 二次方程式 2. 二次方程式の利用	- 二次方程式とその解の意味を理解し、平方根や解の公式、因数分解を用いて二次方程式を解くことができる。 - 二次方程式を利用して問題を解決したり、解を吟味したりすることができる。
2	9	4章 関数 $y=ax^2$	1. 関数とグラフ 2. 関数 $y=ax^2$ の値の変化 3. いろいろな事象と関数	- 事象の中には$y=ax^2$で表される関数関係があることを知り、その特徴を理解する。 - 関数$y=ax^2$のグラフとその特徴を理解し、グラフを書くことができる。 - 身のまわりの事象の中から関数$y=ax^2$の関係を見つけ、それを利用して、問題を解決することができる。
	10	5章 図形と相似	1. 図形と相似	- 図形の拡大・縮小の意味を知り、それをもとに図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解する。 - 三角形の相似条件を知り、簡単な場合にそれを用いることができる。 - 三角形の相似条件を使って図形の性質を証明することができる。
	11		2. 平行線と線分の比 3. 相似な図形の計量 4. 相似の利用	- 平行線と線分の比に関する性質を見だし、それを活用することができる。 - 相似な図形について、相似比と面積比、体積比の関係を理解する。 - 縮図をかくて、2地点間の距離や建物の高さを求めることができる。
	12	6章 円の性質	1. 円周角と中心角 2. 円の性質の利用	- 円周角の意味を理解し、円周角と中心角の関係を知り、具体的な場面で活用することができる。 - 円の性質を根拠にした証明や作図ができる。
3	1	7章 三平方の定理	1. 直角三角形の3辺の関係 2. 三平方の定理の利用	- 観察・操作を通し、三平方の定理を見だし、それが証明できることを理解する。また、三平方の定理の逆について知る。 - 三平方の定理を利用して、正三角形の高さ、弦の長さ、2点間の距離、直方体の対角線の長さ、正四角錐の高さや体積などを求めることができる。
	2	8章 標本調査とデータの活用	1. 標本調査	- 調査の中には、全てを調べるのが適切でない調査があることを見つけ、全数調査と標本調査の意味がわかる。 - 母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解する。また、標本調査の方法や標本抽出の方法を理解する。
	3	復習	3年間の復習	3年間の学習を振り返り、中学校3年間の数学の基礎・基本をかため、入試対策を行う。

教科名	社会	週時間数	3 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の地理（帝国書院） 新しい社会歴史（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）				

社会科 の目標	・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。 ・課題の解決に向けて選択・判断し、説明したりすることを基に議論などをする力を養う。 ・よりよい社会の実現させるために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図り、他国や他国の文化を尊重する。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	【地理的分野】 日本や世界の様々な地域の特徴や課題などの様子についての理解。グラフや表などの資料を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。 【歴史的分野】 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れや、各時代の特色についての理解。資料から歴史に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。	・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
思考・判断・表現	【地理的分野】 地理に関する事象について、人々の生活環境や自然環境、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。 【歴史的分野】 歴史に関する事象について、人々の生活、現在とのつながり、伝統・文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
学習に 主体的に 取り組む 態度	【地理的分野】 世界や日本の社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために地理的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。 【歴史的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために歴史的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト・定期テスト ・確認テスト ・ワーク、ノートなどの提出物 ・授業に取り組む様子
学習 方法	・授業では教師の話をしっかり聞き、分からないことなどは質問するなど、積極的に取り組む。 ・少なくとも、黒板に書かれたことは、ノートに写すようにする。 ・学習内容の理解が進むように、ノートの取り方を工夫する。 ・振り返りは、めあてを意識して、理解できたことなどを読む人に伝えるように書く。 ・学習した内容は、ワークなどを利用して定着するまで復習する。 ・単元テストやワークなどで、できなかったところはできるようにする。分からないところは、教師に聞くなどして、分かるようにする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	【地理的分野】 世界の姿	地図の読み方。 世界の国々の位置の表し方。	地図帳を活用し、地図を読むことができる。
	5	日本の姿	日本の位置や領域	日本の領域について理解することができる。
		人々の生活と環境	世界の人々の生活と自然環境とのかかわりについて	雨温図を読み取ることができる。 教科書の写真や文章から、各気候区の人々の生活について読み取ることができる。
		アジア州	アジア州の様子 アジア州の急速な経済発展について	アジア州の様子について理解することができる。 アジア州の発展の裏にある、環境や生活の課題について考え、自分の意見を持つことができる。
	7	ヨーロッパ州	ヨーロッパ州の様子 国どうしの結びつきによる影響について	ヨーロッパ州の様子について理解することができる。 EU の利点や課題について考え、自分の意見を持つことができる。
2	9	アフリカ州	アフリカ州の様子 特定の産物に依存する経済について	アフリカ州の様子について理解することができる。 モノカルチャー経済について理解し、それらを改善していく方法について考え、自分の意見を持つことができる。
	10	北アメリカ州	北アメリカ州の様子 アメリカ合衆国の巨大産業について	北アメリカ州の様子について理解することができる。 アメリカ合衆国の車社会や大量消費の問題について考え、自分の意見を持つことができる。
		南アメリカ州	南アメリカ州の様子 農協業の発展と森林開発について	南アメリカ州の様子について理解することができる。 アマゾンの開発とブラジルの経済発展について考え、自分の意見を持つことができる。
		オセアニア州	オセアニア州の様子 他地域との関係の変化について	オセアニアの州の様子について理解することができる。 オセアニア州の国々の主な貿易相手国が変化してきた理由について考え、自分の意見を持つことができる。
	11	【歴史的分野】 歴史をとらえる見方・考え方	歴史の学び方	歴史を学ぶにあたって、時代や年代の見方などを理解することができる。
		世界の文明と宗教のおこり	世界の古代文明や宗教のおこり	世界の文明の共通点や相違点について、理解することができる。
3	12	日本列島の誕生と大陸との交流	縄文時代・弥生時代・古墳時代の日本 大陸との関わり	大陸の歴史文書などから、当時の日本の様子を読み取り、理解することができる。
	1	古代国家の歩みと東アジア世界	飛鳥時代・奈良時代・平安時代の日本 律令制の確立と崩壊	律令制度を整えていく過程と律令制が崩れていく要因について理解することができる。
	2	武士政権の成立	平安時代・鎌倉時代の日本 武士の成長	平家政権の盛衰や鎌倉幕府の成立を通して、武士の政権が確立していく過程を理解する。
	3	ユーラシアの動きと武士政治の展開	鎌倉時代・室町時代の日本 中国との関わり	鎌倉幕府や室町幕府の政策が、東アジアの情勢とかかわりがあることを理解する。
		ヨーロッパ人との出会いと全国統一	ヨーロッパ人の世界進出 戦国時代の政治	戦国時代を変えたキリスト教や鉄砲が日本にもたらされた経緯について、ヨーロッパの情勢から理解することができる。

教科名	社会	週時間数	3 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の地理（帝国書院） 新しい社会歴史（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）				

社会科 の目標	・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。 ・課題の解決に向けて選択・判断し、説明したりすることを基に議論などをする力を養う。 ・よりよい社会の実現させるために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図り、他国や他国の文化を尊重する。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・ 技能	【地理的分野】 日本や世界の様々な地域の特徴や課題などの様子についての理解。グラフや表などの資料を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。 【歴史的分野】 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れや、各時代の特色についての理解。資料から歴史に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。	・期末テスト ・単元テスト
思考・ 判断・ 表現	【地理的分野】 地理に関する事象について、人々の生活環境や自然環境、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。 【歴史的分野】 歴史に関する事象について、人々の生活、現在とのつながり、伝統・文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。	・期末テストでの文章問題 ・単元テストでの応用問題 ・ふりかえり
主体的に 学習に 取り組む 態度	【地理的分野】 世界や日本の社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために地理的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。 【歴史的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために歴史的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。	知識・技能/思考・判断・表現を踏まえた上で次のことで評価します ・ふりかえり ・授業における学習態度 ・単元テストでの記述問題
学習 方法	授業では教師の話をしっかり聞き、分からないことなどは質問するなど、積極的に取り組む。 ・黒板に書かれたことは、ノートに写すようにする。 ・学習内容の理解が進むように、ノートの取り方を工夫する。 ・振り返りは、めあてを意識して、理解できたことなどを読む人に伝えるように書く。 ・学習した内容は、ワークなどを利用して定着するまで復習する。 ・単元テストやワークなどで、できなかったところはできるようにする。分からないところは、教師に聞くなどして、分かるようにする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	【歴史的分野】 第4章 近世の日本	オリエンテーション	
			2節 江戸幕府の成立と支配の仕組み	江戸時代の政策がなぜ 260 年続いたか理解することができる。
	5	【地理的分野】 第3部 日本のさまざまな地域	3節 産業の発達と幕府政治の動き	江戸時代に起きた改革や文化について理解することができる。
	6		1章 身近な地域の調査	地形図を読み取り、活用することができる。
2			2章 日本の地域的特徴	日本の気候や人口の変化について理解し、自分の意見を持つことができる。
	7		3章 日本の諸地域 九州地方	九州地方の自然環境について理解し、考えを深めることができる。
	9		3章 日本の諸地域 中国四国地方	中国四国地方の交通路の発展により起きたことを理解し、考えを深めることができる。
			近畿地方	近畿地方の産業の特徴について理解し、考えを深めることができる。
	10		中部地方	東海・北陸・中央高地の各地域を比較し、考えを深めることができる。
			関東地方	関東地方の過疎・過密地域について理解し、考えを深めることができる。
	11		東北地方	東北地方の食文化や祭りについて理解し、考えを深めることができる。
			北海道地方	北海道地方の人間と自然環境との相互依存関係について学び、考えを深めることができる。
3	12	【歴史的分野】 第5章 開国と近代日本の歩み	1節 欧米における近代化の進展	欧米諸国が世界に先駆けて発展したことについて理解することができる。
	1			
	2		2節 欧米の進出と日本の開国	欧米とアジアの関係が変化する中、江戸幕府が減んだことについて理解することができる。
	3		3節 明治維新	他アジア諸国に先駆けて日本の近代化が進んだ理由について理解することができる。

教科名	社会	週時間数	4 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 新しい社会歴史（東京書籍） 新しい社会公民（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）				

社会科 の目標	・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。 ・課題の解決に向けて選択・判断し、説明したりすることを基に議論などをする力を養う。 ・よりよい社会の実現させるために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図り、他国や他国の文化を尊重する。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	【歴史的分野】 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れや、各時代の特色についての理解。資料から歴史に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。 【公民的分野】 個人と社会との関わりを中心にした、民主政治、経済活動、現代の社会生活、国際関係などについての理解。資料から現代の社会的に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。	・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
思考・判断・表現	【歴史的分野】 歴史に関する事象について、人々の生活、現在とのつながり、伝統・文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。 【公民的分野】 現代社会に見られる課題について、社会的事象の意味、意義、特色、関連性などに着目し、社会生活と関連付けて、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
学習に 主体的に 取り組む 態度	【歴史的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために歴史的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。 【公民的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、現代社会に見られる課題を見出し、主体的に社会に関することで解決しようとする態度。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト・定期テスト ・確認テスト ・ワーク、ノートなどの提出物 ・授業に取り組む様子
学習方法	・授業では教師の話をしっかり聞き、分からないことなどは質問するなど、積極的に取り組む。 ・少なくとも、黒板に書かれたことは、ノートに写すようにする。 ・学習内容の理解が進むように、ノートの取り方を工夫する。 ・振り返りは、めあてを意識して、理解できたことなどを読む人に伝わるように書く。 ・学習した内容は、ワークなどを利用して定着するまで復習する。 ・単元テストやワークなどで、できなかったところはできるようにする。分からないところは、教師に聞くなどして、分かるようにする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	【歴史的分野】 日清・日露戦争と近代産業	日清・日露戦争と日本への影響について	日清・日露戦争を通して、日本が帝国主義諸国に近づき、日本の近代化がさらに進んだことを理解することができる。
	5	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦と世界への影響について	第一次世界大戦が世界に与えた影響について理解することができる。
		大正デモクラシーの時代	大正時代の民衆による社会運動	大正時代に、民衆が様々な権利を主張したことを知り、民衆の思いを考えることができる。
	6	世界恐慌と日本の中国侵略	昭和初期の日本の様子と、戦争に至る経緯	日本が戦争に向かっていく様子を政治や経済の面から理解することができる。
		第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦や太平洋戦争と、日本の人々の生活	第二次世界大戦や太平洋線の経緯を知り、今まで触れてきた平和学習などを生かしつつ、自分の考えを持つことができる。
	7	戦後の日本 【公民的分野】 現代社会の特色と私たち	戦後の政治・経済の改革と高度経済成長 持続可能な社会、グローバル化、少子高齢化、情報化	戦後の占領による政策やその後の高度経済成長について知り、現代の日本が形成されてきたことを理解することができる。 現代の主な課題の現状について知り、それらを解決していくための方策について考えることができる。
2	9	私たちの生活と文化	生活と文化の関り、多文化共生	我々の生活は文化と密接にかかわっていることや国外の文化とも関連があることを理解できる。
		現代社会の見方や考え方	社会集団の中での決まりの作り方や見直し	決まりを作る意義や目的を理解し、効率・公正の観点から決まりを評価することができる。
	10	人権と日本国憲法	国民主権、平和主義、基本的人権の尊重	日本国憲法の基本原理（国民主権、平和主義、基本的人権の尊重）について理解することができる。
		人権と共生社会	平等権、自由権、社会権、人権を保障する権利	様々な人権が日本国憲法によって保障されていることを理解することができる。
		これからの人権保障	新しい人権、グローバル社会の中での人権	人権の考えは、時代によって新たに生み出されていることや世界全体で考えられていることを理解できる。
		現代の民主政治	民主政治の仕組みや選挙について	民主政治の仕組みについて知り、将来大切な一票を持つことになることを意識することができる。
		国の政治の仕組み	国会、内閣、裁判所の仕組みや役割	国会、内閣、裁判所の仕組みについて知り、それら相互の関りについて理解することができる。
		地方自治と私たち	地方自治の仕組みや住民としての役割	地方自治の仕組みについて理解するとともに、地方自治の一員としての自覚を持つことができる。
	11	消費生活と市場経済	消費生活、流通、消費者の権利について	消費者が自立していくことが大切であることを理解することができる。
		生産と労働	企業の仕組みや労働者の権利について	企業の仕組みを知るとともに、労働者の権利について社会権と関連付けて理解することができる。
3	12	市場経済の仕組みと金融	価格の決め方や金融のしくみについて	経済が、人々の考えや行動によって変化していくことを理解することができる。
	1	財政と国民の福祉	税の仕組みと社会保障制度について	税の制度や役割について、国や地方公共団体の政治と関連付けて理解することができる。
	1	これからの経済と社会	公害防止や環境の保全について	経済発展の弊害について理解し、それを解決しようと考えることができる。
	2	国際社会の仕組み さまざまな国際問題	国どうしが抱える問題と国際連合の仕組み 環境、エネルギー、貧困、戦争、難民	グローバル化が進展する中で、国際連合が果たす役割について理解することができる。 国境を越える課題について理解し、それらを解決しようと考えることができる。
	3	これからの社会と日本	より良い地球社会をめざして	今後の社会がより良くなるにはどうすればよいかを考えることができる。

教科名	英語	週時間数	4 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 NEW HORIZON 東京書籍 副教材 Joyful Work Book 新学社				

英語科 の目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。		
評価について			
観点	つきたい力	方法	
知識・技能	・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に着けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、単元テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト	
思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト、単元テスト ・パフォーマンステスト	
主体的に 学習に取り組む 態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、ノート、プリント、タブレット、振り返りシート等提出物	
学習方法	《学校では》 ・英語は習った表現をどんどん使おう。間違いを怖れずに挑戦し積極的に発言しよう。 《家庭では》 ・教科書の英文は何度も音読しよう。1年生の英語は丸覚えするぐらいの気持ちで取り組もう。 ・英語の歌やラジオ、TV、映画等を積極的に視聴し英語に触れる機会を増やそう。 ・英語は、繰り返し学習が大切です。短時間でもいいので必ず毎日復習しよう。習った単語や文は、何度も見たり、言ったり、書いたりして覚えるまで復習しよう。 ・宿題は出された日にやる習慣をつけよう。 《定期テストでは》 ・特に試験範囲中の単語や基本文は、何度も繰り返し学習しよう。授業で使ったプリント等も、しっかり見直しておこう。		

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	<Unit0>	・小学校で学習した内容の復習 ・アルファベット ・あいさつ・身のまわりの英語	・小学校で習った英語表現を使ってクラスメートと話したり、先生の指示に合わせて動くことができる。 ・アルファベットの名前と音、読み方のちがいを理解することができる。
	5	<Unit1>	・自己紹介 (be 動詞、一般動詞、be 動詞・do 動詞の疑問文)	・自分のことについて、今の気分や状態、好きな食べ物などについて話すことができる。
	6	<Unit2>	・身近な人や物を紹介する ・身近な人や物について尋ねる ・can の文	・すでに話題になった人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。 ・できることについて、伝えたりたずねたりできる。
	7	<Unit3>	What is~? Who is~? ・手段や行動について尋ねる文とその応答 ・When~?/Where~?とその応答	・知らない人やものについてたずねたり、答えたりすることができる。 ・場所や時をたずねたり、答えたりすることができる。
2	9	<Unit4>	・How many~?とその応答 ・What time~?とその応答 ・What+名詞~?とその応答 ・命令文	・数をたずねたり、答えたりすることができる。 ・時刻をたずねたり、答えたりすることができる。 ・何が好きかをたずねたり、答えたりすることができる。 ・相手に指示や助言をすることができる。 ・家族や友人について場面や状況に合う文を作ることができる。
	10	・ Stage Activity1 <Unit5>	・3人称単数現在形(肯定・疑問・否定)	・自分と相手以外の人について話すことができる。
		Real Life English (Scene 1)		・コマーシャルを聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
	11	<Unit6>	・人称代名詞(目的格) ・Whose~?とその応答 ・Which~, A or B?	・持ち主をたずねたり、誰のものを伝えることができる。 ・「どれ」「どちら」と質問したり、答えたりすることができる。
	12	Real Life English (Scene 2)		・身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。
		<Unit7>	・現在進行形(肯定・疑問・否定) ・感嘆文 What~!/How~!	・今、していることを説明したり、たずねたりすることができる。 ・感動をあらわす表現ができる。
3	1	Real Life English (Scene 3)		・徒歩で道順を尋ねたり、教えたりすることができる。
		<Unit8>	・不定詞【名詞的用法】(肯定・疑問・否定) ・look+形容詞	・したいことや、する必要のあることなどについて伝えたり、たずねたりできる。 ・人やものの外見について説明することができる。 ・レストランなどで注文したり質問に答えたりすることができる。
		Real Life English (Scene 4) Stage Activity2		
	2	<Unit9>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定)	・過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。 ・旅先からの絵葉書を書くことができる。 ・思い出に残った出来事について発表することができる。
	3	Real Life English (Scene 5) Stage Activity3		
	2	<Unit10>	・be 動詞の過去形 ・過去進行形 ・There is/are~.	・過去の様子や状態について説明することができる。 ・過去のある時点の動作を説明することができる。 ・「(場所に)~がある」と説明したり、たずねたりすることができる。
	3	Real Life English (Scene 6) ・Let's read	総復習	物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。

教科名	英語	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 NEW HORIZON (東京書籍) 副教材 Together English (学宝社)				

英語科 の目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	
	評価について	
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に付けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
学習に主体的に取り組む態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、プリント、振り返りシート、タブレット等提出物
学習方法	≪学校では≫ ・英語は伝えようとするのが大切です。間違いを恐れず積極的に授業に取り組もう。 ・必要と感じたことを積極的にメモしよう。 ・授業で習ったことを振り返りなどでわかりやすくまとめよう。 ≪家庭では≫ ・学校で学習したことをワークを使って復習しよう。 ・英語は繰り返し学習が大切です。単語や文法などは、書くこと・読むこと・聞くことを大切に繰り返し練習しよう。教科書のリスニング・音読は本文を暗記するつもりで定期的に行おう。 ≪定期テストでは≫ ・試験範囲中の単語や本文は、何度も繰り返し書いて覚えよう。ワークは何度も解きなおそう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	<Unit0>	・動詞の過去形	・クラスメイトのことをよりよく知るために、これまでに学んだことを用いて、自分が経験したことを伝え合うことができる。
		<Unit1>	・be going to / 助動詞 will ・SVOO / SVOC	・旅行の楽しさと海外の文化や言語について考える。 ・旅行の予定を説明したり、海外で経験できることなどについて伝えたりすることができる。
	5	・Real Life English1 ・Grammar for Communication1		・機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。 ・5つの文構造の形、意味、用法を整理し、理解を確かめる。
		<Unit2>	・接続詞 when、if、because、that	・日本や外国の料理を知り、食文化の歴史や変化について考える。 ・好きな食べ物について、理由や考えとともに紹介することができる。
		・Real Life English2 ・Grammar for Communication2	・May I ? / Could you? ・接続詞	・場面や相手に応じて丁寧に許可を求めたり依頼したりすることができる。 ・接続詞を用いた文の形、意味、用法を復習し、理解を確かめる。
	6	<Unit3>	・不定詞（副詞的用法）	・将来像や夢などについて考え、取り組んでいきたいことについて説明することができる。
		・Real Life English3 ・Learning Technology in English ・Grammar for Communication3 ・Stage Activity1	・Thank you for ～ 等 ・不定詞 ・不定詞 ・総復習	・インタビューを聞き、質問の内容や答えを聞き取ることができる。 ・ロボットが活躍する社会について、ロボットの用途や長所を伝え合ったり書いたりできる。 ・不定詞を用いた文の形・意味・用法を復習し、理解を確かめる。
	7	・Let's Read1	・総復習	・自分をよりよく知ってもらうのに、一番好きな日本食について、その特徴や好きな理由を発表することができる。 ・説明文を読み、時計についての歴史を読み取ったり説明したりできる。
2	9	<Unit4>	・have to / must ・動名詞（目的語・主語）	・海外との生活習慣や文化の違いを知り、取るべき行動についての考えを伝えることができる。
		・Real Life English4 ・Grammar for Communication4	・look forward to ・動名詞	・お世話になった人に、手紙で感謝の気持ちを伝えることができる。 ・助動詞を用いた文の形・意味・用法を復習し、理解を確かめる。
	10	<Unit5>	・疑問詞+to ・主語+動詞+疑問詞+to ・主語+be+形容詞+that	・どのようにしたらよいかを知る・説明するために、使い方や方法について情報をとらえたり伝え合ったりすることができる。 ・誰もが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えることができる。
		・Real Life English5 ・Learning Social Studies in English	・Why don't you～?	・展示・販売会で流れるアナウンスやスタッフの案内を聞き、イベントの情報を聞き取ることができる。 ・SDGsの目標について理解し、取り組みたいことを考えることができる。
	11	<Unit6>	・比較級/最上級/同格	・身近なトピックについて調査を行い、データを比べて発表することができる。
	12	・Real Life English6 ・Grammar for Communication5 ・Stage Activity2 ・Let's Read2	・Could you tell me how to get to～? ・比較表現 ・総復習 ・総復習	・状況や相手の要望に応じて、乗り物での行き方を伝えることができる。 ・比較表現を用いた文の形・意味・用法を復習し、理解を確かめる。 ・自分の学校についてよりよく知ってもらうために、自分の学校や学校生活について、具体例をまじえて説明することができる。
3	1	<Unit7>	・受け身	・世界遺産について知り、その特徴や価値を説明することができる。
	2	・Real Life English7 ・Grammar for Communication6	・May I～?/I'm looking for～ ・受け身	・自分の好みや要望を伝えながら買い物をすることができる。 ・受け身を用いた文の形・意味・用法を復習し、理解を確かめる。
	3	・Stage Activity3	・総復習	・自分たちの町の将来について考えるために、自分の立場を明確にして、意見を述べることができる。
		・Let's Read3	・総復習	・人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。

教科名	英語	週時間数	4 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 NEW HORIZON 3 (東京書籍) 副教材 Joyful Work Book (新学社)				

英語科 の目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に着けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の活動の様子 ・授業でのペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト、単元テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の活動の様子 ・授業でのペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
学習に主体的に取り組む態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、プリント、タブレット、振り返りシート等提出物
学習方法	《学校では》 ・英語は伝えようとするのが大切です。間違いを恐れず挑戦し、積極的に授業に取り組もう。 ・授業で習ったことをノートなどにわかりやすくまとめよう。 《家庭では》 ・教科書に出てくる新しい英単語などを予習しよう。 ・学校で学習したことをノートやワークを使って復習しよう。 ・英語は繰り返し学習が大切です。単語や文法などは、書くこと・読むこと・聞くことを大切に繰り返し練習しよう。教科書のリスニング・音読は本文を暗記するつもりで定期的に行おう。 《定期テストでは》 ・試験範囲中の単語や本文は、何度も繰り返し書いて覚えよう。ワークは何度も解きなおそう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	〈Unit 0〉		
		〈Unit 1〉	・現在完了形(経験用法) ・現在完了形の疑問文	・日本のポップカルチャーの魅力について、経験や感想とともに伝えることができる。
	5	・Real Life English (Scene 1)	・make + (代)名詞 + 形容詞 ・SVOO(that 節)	・これまでに経験のあることについて、伝えたりたずねたりできる。
		〈Unit 2〉	現在完了形(完了用法) 現在完了形(継続用法)	・人や環境にやさしいファッションの取り組みについて説明することができる。
	6	・Real Life English (Scene 2)		・すでに終えたことについて、伝えたりたずねたりできる。
		〈Unit 3〉	・It is ... (for + (人など)) + to + 動詞の原形	・ずっと継続していることについて、伝えたりたずねたりできる。
2	7	・Real Life English (Scene 3)	・want + (人など) + to + 動詞の原形 ・let(help) + (人など) + 動詞の原形	・絶滅のおそれのある動物について知り、大切なことや取るべき行動について伝えることができる。
		・Stage Activity 1 ・Let's Read 1	総復習	・資料から読み取った情報について事実と意見をわけて書くことができる
	9	〈Unit 4〉	・間接疑問文 ・動詞 + (人) + what ・過去分詞 ・現在分詞	・日本や郷土の文化について詳しい情報を加えて説明することができる。
		・Real Life English (Scene 4)		・防災・安全への意識を高め、地域の一員として取るべき行動を考えて伝えあうことができる。
	10	〈Unit 5〉	・名詞を修飾する文(名詞+主語+動詞) 関係代名詞 who 関係代名詞 that/which(主格) 関係代名詞 that/which(目的格)	・相手の立場に立って具体的な提案をしながら申し出たり、応じたりすることができる。
		・Real Life English (Scene 5)		・ガンディーの功績を知り、平和や人権の意味について考えることができる。
3	11	〈Unit 6〉	・仮定法(I wish ...) ・仮定法(If + 主語 + were ...) ・仮定法(If + 主語 + 動詞の過去形 ...)	・社会的な話題について理由や根拠を含めて自分の意見を書くことができる。
		・Real Life English (Scene 6)	・主語を説明する	・これまでの経験を振り返って活動報告を発表することができる。
	12			・国をこえて助け合うことの大切さを知り、願いや思いを伝えることができる。
3	1	・Stage Activity 3	総復習	・ニュースなどのテレビ番組の音声聞いて概要や要点を理解することができる。
	2	Let's Read 2	総復習	・主張とその理由を明確にしながらミニディベートをすることができる。
	3	Let's Read 3	総復習	エネルギー問題に関する説明文を読んで、概要を理解し、自分の考えや意見を述べることができる。
				伝記を読んで、人物の歩みや功績を読み取り、自分の感想を述べることができる。

教科名	理科	週時間数	3 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス I」 啓林館 副教材 「理科の自主学習」 新学社 「理科便覧」 新学社 「観点別評価テスト 積み上げ」 明治図書				

理科 の目標	・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・自然の事物・現象について、自然に対する関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究するために必要な資質・能力・態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの 基本的な技能を身に付けている。	・単元(評価)テスト ・定期テスト ・実技、作図テスト ・実験・観察の技能 ・授業プリント、振り返りの記述
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。	・単元(評価)テスト ・定期テスト ・実験・観察結果の考察 ・振り返り(問題づくり)の記述 ・授業のようす
主体的に 学習する 取り組み 態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・ワークの取組状況 ・振り返り(問題づくり)の記述 ・授業のようす
学習 方法	・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことを理科の自主学習や授業プリントで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ・授業の『めあて』や『ふり返り』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察や実験では、目的や意図を考えながら取り組み、結果をわかりやすくまとめ、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション	自然観察のポイント	・ルーペ・顕微鏡を使って、観察することができる。
	5	自然の中にあふれる生命	身のまわりの生物の観察	・植物の花・葉・根のつくりを判別できる。
		いろいろな生物とその共通点	生物のなかま分けのしかた	・植物を分類することができる。
			いろいろな生物とその共通点	・動物を分類することができる。 (背骨のある動物、ない動物)
2	6		植物の特徴と分類	
	7		動物と特徴の分類	・ガスバーナーを使うことができる。
		身のまわりの物質	いろいろな物質とその性質	・物質を分類することができる。
				・密度を求めることができる。
2	9		いろいろな気体とその性質	・酸素・二酸化炭素・窒素・水素・アンモニアの性質を説明できる。
	10		水溶液の性質	・水溶液の濃度を計算で求めることができる。
			物質のすがたとその変化	・溶解度曲線を読みとることができる。
				・状態変化における温度と体積の関係を説明できる。
2	11	光・音・力による現象	光による現象	・蒸留の実験を行うことができる。
	11		音による現象	・光の進み方を説明できる。
			力による現象	・凸レンズのはたらきを説明できる。
				・音が伝わるしくみを説明できる。
3	12			・力の種類を判別し、力を矢印で表すことができる。
	1	活きている地球	身近な大地	・フックの法則の実験を行うことができる。
			地震～ゆれる大地～	・力がつり合うしくみを説明できる。
			火山～火を噴く大地～	・身近な地形の観察から大地の成り立ちや観察器具の使い方を理解できる。
3	2			・地震が発生するしくみを説明できる。
	3		地層～語る大地～	・地震発生時刻などを計算して求められる。
				・火山のでき方と特徴を説明できる。
				・火成岩を分類することができる。
3	3			・地層のでき方を説明できる。
	3			・堆積岩を分類することができる。
			1年のまとめ	・地層から年代や環境を推定することができる。

教科名	理科	週時間数	4 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス」 啓林館 副教材 「理科の自主学習」 新学社 「理科便覧」 浜島書店 「観点別評価テスト 積み上げ」 明治図書				

理科 の目標	・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・自然の事物・現象について、自然に対する関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究するために必要な資質・能力・態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの 基本的な技能を身に付けている。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実技、作図テスト ・実験・観察の技能 ・授業プリント、振り返りの記述
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実験・観察結果の考察 ・振り返りの記述 ・授業のようす
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・ワークの取組状況 ・振り返りの記述 ・授業のようす
学習方法	・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことを理科の自主学習や授業プリントで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ・授業の『めあて』や『ふり返り』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察や実験では、目的や意図を考えながら取り組み、結果をわかりやすくまとめ、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	化学変化と原子・分子	物質のなりたちと化学変化	・物質は原子や分子からできていることや、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されることを理解する。
	5		さまざまな化学変化	・原子や物質を記号やモデルで表すことができる。
	6		化学変化と物質の質量	・分解、化合、還元等の実験を行い、生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。
	7	生物の体のつくりとはたらき	生物の体をつくるもの	・化学変化をモデルで説明し、化学反応式で表すことができる。 ・実験器具の使い方や、結果の整理などの技能を身につける。 ・実験を通して、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいことを見出し、説明できる。 ・反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見だし、説明できる。 ・生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見だし理解する。
2	9	電流とその応用	植物の体のつくりとはたらき	・植物の体のつくりについて、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関連する現象を関連づけて理解する。
	10		動物の体のつくりとはたらき	・ヒトの体を例として、動物が生命を保つしくみについて理解し、説明できる。
	11		動物の行動のしくみ	・動物が外界の刺激に反応するしくみを、感覚器官、神経及び運動器官のつくりと関連付けて理解する。
	12		電流の性質	・電流にはどのような性質やはたらきがあるのか理解し、電圧と電流の関係について規則性を見いだす。 ・実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を身につける。
3	1	地球の大気と天気の変化	電流の正体	・静電気の性質や静電気と電流の関係性を見いだす。 ・放射線にはどのような種類があるのか理解する。
	2		電流と磁界	・日常生活と関連付けながら、電流と磁界にはどのような関係があるのか見だし、説明できる。
	3		地球をとり巻く大気の様子	・直流と交流の違いを理解し、説明できる。
	4		大気中の水の変化	・気象要素の変化と天気の変化の関係を見だし、説明できる。
3	5	地球の大気と天気の変化	天気の変化と大気の動き	・大気圧・圧力について、日常生活と関連付けて理解し、計算力を身につける。
	6		大気の動きと日本の四季	・霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。
	7		大気中の水の変化	・大気の動きと天気の変化との関連性を理解し、説明できる。
	8		天気の変化と大気の動き	・日本付近の大気の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の動きの一部として捉える。
3	9	地球の大気と天気の変化	大気の動きと日本の四季	・日本の四季の天気変化は、気団の動きと関連付けながら、どのようなしくみで起こるのかを理解し、説明できる。
	10		大気中の水の変化	
	11		天気の変化と大気の動き	
	12		大気の動きと日本の四季	

教科名	理科	週時間数	4 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス3」 啓林館 副教材 「理科の自主学習」 新学社				

理科の 目標	・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの 基本的な技能を身に付けている。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実技、作図テスト ・実験・観察の技能 ・課題、振り返りの記述
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実験・観察結果の考察 ・振り返りの記述 ・授業のようす
学習主体に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・ノート、課題の記述 ・ワークの取組状況 ・振り返りの記述 ・授業のようす
学習方法	・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことを理科の自主学習などで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ・授業の『めあて』や『ふり返り』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察や実験では、目的や意図を考えながら取り組み、結果をわかりやすくまとめ、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	運動とエネルギー	力の合成と分解	・重力と浮力の関係を理解する。 ・作図によって合力や分力を求めることができる。
	5		物体の運動	・物体の運動の様子の調べ、物体にはたらく力と運動の関係を理解する。
	6		仕事とエネルギー	・仕事の定義を理解し、仕事の原理を見出すことができる。力学的エネルギーの保存について理解する。
	7	生命の連続性	多様なエネルギーとその移り変わり エネルギー資源とその利用 生物のふえ方と成長	・エネルギーの移り変わりや、エネルギーの総量について理解する。 ・エネルギー資源の確保や安全な有効利用、環境保全を図るこの重要性を認識する。 ・有性生殖と無性生殖の違いについて理解する。 ・生物の成長を細胞分裂と関連付けて捉え、減数分裂について理解する。
2	9	化学変化とイオン	遺伝の規則性と遺伝子 生物の種類の多様性と進化	・親から子への形質の伝わり方に規則性があることを理解する。 ・現存の生物と過去の生物の関係性を、体のつくりと関連付けて理解し、進化の概念を身につける。
	10		水溶液とイオン	・電解質について理解し、イオンの存在を見いだす。 ・イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。
	11		電池とイオン 酸・アルカリと塩	・金属イオンのイオンへのなりやすさの違いを知り、電池の基本的なしくみを説明できる。 ・酸やアルカリの性質が何に起因するかを見出す。 ・電離や中和反応をイオンのモデルを使って説明できる。
	12	宇宙を観る	地球から宇宙へ 太陽と恒星の動き	・太陽や惑星の特徴や太陽系の構造を理解する。 ・天体の日周運動や年周運動が、地球の運動によることを理解する。 ・季節ごとの星座の変化や太陽の南中高度の変化の理由を理解する。
3	1	自然と人間	月と金星の動きと見え方	・月や金星の見え方を公転と関連付けて理解し、説明できる。
	2		自然界のつり合い さまざまな物質の利用と人間 科学技術の発展	・生物がつり合いを保って生活していることを見出し理解する。 ・さまざまな物質が目的や用途で使い分けられていることを認識し、有効利用するための方法に気付かせる。 ・さまざまな科学技術の利用が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識し、発展の方向性を検討する。
	3		人間と環境 持続可能な社会をめざして	・人間の活動と自然環境の関係について、考察できる。 ・持続可能な社会をつくることの重要性を認識する。
			3年のまとめ	

教科名	技術	週時間数	1 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書「新しい 技術・家庭 技術分野 」東京書籍 副教材「技術・家庭 ハンドノート 技術分野」正進社				

技術科 の目標	・生活や産業の中で技術の果たしている役割について考え、環境・エネルギー・資源との関係について知る。 ・製品の設計について、機能・構造・材料について考えることができ、構想の表示方法を知り製作に必要な図をかくことができる。 ・製作に使用する工具や機械の使用法及び、製作品の部品加工及び組み立て、仕上げができること。 ・コンピュータの構成と機能に関心を持ち、操作に意欲的に取り組めること。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・授業プリントの記述 ・授業の振り返り ・定期テスト ・実技テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・授業の振り返り ・授業態度 ・定期テスト ・実技テスト ・ワーク、プリントなどの提出物
学習 方法	・積極的に制作に取り組み、自分を表現しよう。 ・自ら考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 ・作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み根気よく制作に集中しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	材料と加工の技術	それぞれの材料の特徴を理解する。	・木材・金属・プラスチックの特徴を理解する。
	5		加工の技術について知る。	・使用目的、使用条件を整理しながら構想方法を知る。
	6			・じょうぶな構造がわかる。
	7		ものを設計する時に気を付けることを理解する 製品の構想を、図に表す	・立体図の書き方を知り、書くことができる。 ・寸法の記入方法がわかる。 ・製作に必要な部品を考え、おだなく材料取りができる。 ・製作工程を理解し、作業の流れを把握できる。
2	9	材料と加工の技術	木製品の制作	・使用材料ごとのけがき方と使用工具を知る。
	10		けがき	・切りしろやけずりしろを見こんで、仕上がり寸法線と切断線をけがく。
	11		部品の加工、組み立て、塗装をする	・さしがねの使用方法を理解する。 ・工具と切断のしくみを理解することができる。
	12			・材料を安全に、正確に切断線に従って切断できる。 ・材料ごとの部品加工法を理解できる。 ・寸法線にしたがって図面どおりに加工できる。 ・図面どおりに加工できたか検査し、修正できる。
3	1	材料と加工の技術	組み立て	・仮組み立てができ、正しい手順や方法で組み立てができる。 ・組み立てた製品の検査と修正ができる。
	2		製品の仕上げ	・製品の材質や使用目的にあった仕上げ方法を調べ、素材や用途にあった塗装や表面処理ができる。
	3	情報の技術	コンピュータの構成を学ぶ	・コンピュータの構成機器を知る。

教科名	技術	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書「NEW 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」教育図書 副教材「NEW 技術・家庭 技術分野 ワークノート」教育図書				

技術科 の目標	・製作に使用する工具や機械の使用法及び、製作品の部品加工及び組み立て、仕上げができること。 ・エネルギーの変換を利用した製作品のエネルギーの変換方法や力の伝達のしくみを知り、適切な機構や電気回路を選択して設計・製作ができる。 ・製作に使用する工具や機器の種類や用途、使用方法を知り安全に使用することができる。 ・製作において使用する機器について、しくみや電気回路について知り、用途や性能と各部の働きとの関係を理解し、機器の保守点検と漏電、感電などの事故防止ができる。 ・適切なプログラムの制作、動作およびデバッグ等ができる技能を身につけている。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・授業プリントの記述 ・授業の振り返り ・定期テスト ・実技テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・授業の振り返り ・授業態度 ・定期テスト ・実技テスト ・ワーク、プリントなどの提出物
学習方法	・積極的に制作に取り組み、自分を表現しよう。 ・自ら考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 ・作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み根気よく制作に集中しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	生物育成の技術	栽培	・ 作物の成長に必要な要素を理解する。
	5			・ しっかりと世話をして作物を栽培する
	6	エネルギー変換の技術	わたしたちの生活とエネルギー 電気エネルギーの変換と利用	・ 自然界のエネルギー資源の活用について理解する。
	7			・ それぞれの発電の持つ問題点を考える。 ・ 今後のエネルギー問題について考える。 ・ 電気の持っている特徴について理解する。 ・ 電気エネルギーを他のエネルギーに変換する方法を知る。 ・ 回路図に使用される基本的な記号を知る。
2	9	エネルギー変換の技術	製作の準備	・ 製作の工程表を作成する。
	10		工具の使用	・ ニッパやラジオペンチ，はんだごての使用方法を 実習を通して理解する。
	11			・ 安全で適切な使用法を理解する。
	12		部品加工 組み立て	・ 工具や機器の取り扱いでは，安全な作業を徹底する。 ・ 合理的な組み立て手順を考える。 ・ 組み立て後の検査と修正を行う。
3	1	エネルギー変換の技術	製品の仕上げ	・ コンピュータの構成機器を知る。 ・ プログラミングの基礎を理解する。 ・ 安全・適切にプログラムの制作、動作の確認及び デバッグができる。
	2		コンピュータの構成を学ぶ	
	3		プログラミング	

教科名	技術	週時間数	0.5時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書「NEW 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」教育図書 副教材「NEW 技術・家庭 技術分野 ワークノート」教育図書				

技術科 の目標	・情報化社会におけるコンピュータの重要性と危険性に気づき、コンピュータを使用する上での心構えを身につける。 ・適切なプログラムの制作、動作およびデバッグ等ができる技能を身につけている ・生活を工夫し、創造する能力を養う。	
評価について		
観点	つけたい力	方法
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・授業プリントの記述 ・授業の振り返り ・定期テスト ・実技テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・授業の振り返り ・授業態度 ・定期テスト ・実技テスト ・ワーク、プリントなどの提出物
学習方法	・積極的に制作に取り組み、自分を表現しよう。 ・自ら考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 ・作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み根気よく制作に集中しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	情報の技術	パワーポイント	・パワーポイントの使い方を理解できる。
	5		コンピュータの構成を学ぶ	・コンピュータの構成機器を知る。
	6		情報モラルについて学習しよう	・知的財産権に関する知識を理解する。
	7			・情報モラルについての知識を理解する。
2	9	情報の技術	表計算（エクセル）	・エクセルを利用して、目的に合った計算式を入力できる。
	10			・エクセルを利用して、目的に合った表やグラフを作成できる。
	11			
	12			
3	1	情報の技術	ワード	・応用ソフトを適切に活用して作品を作ることができる。
	2		ペイント	・生活に必要な情報をデジタルデータにまとめることができる。
	3			・応用ソフトを意欲的に活用できる。
				・創意工夫して作品を作り上げることができる。

教科名	家庭	週時間数	1 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 副教材	技術・家庭 ハンドノート	家庭分野 家庭分野	東京書籍 正進社	

家庭科 の目標	・作品を制作したり、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・生活を工夫し、創造する能力を身につける。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。	・定期テスト ・授業プリントやノートの記述 ・授業中の発言、観察 ・調理実習や裁縫等の実技
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、観察 ・ワークの記述（深めよう） （授業・単元のふりかえり） ・定期テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	・授業中の発言、観察 ・プリント等の記述 ・ふりかえり
学習方法	・授業中は私語を慎み授業に集中し取り組もう。 ・ハンドノートを中心に学習しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	健康と食生活	食事の役割について考える	・健康と食事について考える。生活の中で、食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて知る。
	5	何をどれだけ食べた らよいか	健康によい食習慣について考える 栄養素の種類と働きを知る 中学生に必要な栄養について考える 食品に含まれる栄養素を調べる	・健康に良い食習慣について考えることができる。 ・自分の食生活を振り返り課題を見つけることができる。 ・栄養素の種類と働きが分かる。 ・体の成長や活発な活動と日本人の食事摂取基準とのつな
	6		1日に必要な食品の種類や概量を知る	・食品成分表で、食品に含まれる栄養素などの量を調べる。 ・食品を6つの基礎食品群に分類することができる。 ・中学生の1日に必要な食品の種類や概量を理解する。 ・食品群別摂取量の目安と一日に必要な食品の種類と概量がわかる。
	7		1日分の献立を考える	・中学生の1日分の献立を考えることができる。 ・1回の食事で食品群別摂取量のめやすの3分の1の量をとるようにする。
2	9	調理と食文化	食品の選択と購入について考える 購入した食品を適切に保存する	・用途に応じた適切な食品の選択ができる。 ・食品の適切な保存方法を理解する。 ・食中毒の原因を理解し、予防について考えることができる。
	10			・食品の品質を、見た目や表示などから見分けることができる。
	11		調理の基礎を知る 調理実習 野菜・いも・肉・魚・の調理する	・安全と衛生に気を付けて、適切な火加減で調理することができる。 ・食材や調理器具を安全で衛生的に取り扱うことができる。
	12			・日常食の調理の計画を立てることができる。 ・野菜・いも・肉、魚、の種類や特徴を理解する。
3	1	消費者の権利と責任	日本の食文化を知る 和食の調理を知る	・自分の住む地域でとれる食材や地域の食文化について知る。 ・地域で取れた食材を利用することの意味を考える。 ・だしの基本的な材料と、だしのとり方を理解する。⑩
	2		買い物をふり返る 買い物の法的な意味を考える	・地域または季節の食材を用いた和食の調理をすることができる。 ・消費者としての自覚を持つ。 ・意思決定のプロセスにそって、商品購入を管変えることができる。
	3			・契約とは何かを理解する。 ・契約によって発生する権利と義務を理解する。

教科名	家庭	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 技術・家庭 家庭分野 教育図書 副教材 技術・家庭分野 ワークノート 教育図書				

家庭科 の目標	・作品を制作したり、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・生活を工夫し、創造する能力を身につける。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。	・定期テスト ・授業プリントやノートの記述 ・授業中の発言、観察 ・調理実習や裁縫等の実技
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、観察 ・ワークの記述（深めよう） （授業・単元のふりかえり） ・定期テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	・授業中の発言、観察 ・プリント等の記述 ・ふりかえり
学習方法	・授業中は私語を慎み授業に集中し取り組もう。 ・ハンドノートを中心に学習しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	私たちの衣生活	衣服の働きを考える	・衣服の基本的な働きを理解する。
	5		目的に合わせて自分らしく着る	・TPOを踏まえた自分らしい着方を考えることができる。
			衣服を計画的に活用できるようになる	・日本の伝統的な衣服である和服について理解する。
			自分に合った衣服を手に入れる	・衣服の計画的な活用について考えることができる。
2	6	生活を豊かにする製作	布を使ってつくってみる	・日本の伝統的な衣服である和服について理解する。
	7		被服実習	・衣服を適切に選択するためのポイントを理解する。
				・衣服の表示から情報を読み取り、活用することができる。
3	9	私たちの住生活	衣服の手入れをする	・衣服の材料や状態に合わせた手入れの方法を理解する。
	10		住まいの働きを知る	・衣類の材料や状態に応じた洗濯や補修などができる。
			家族が暮らしやすい住まい方を考える	・住まいの基本的な働きを理解する。
			健康を守る室内環境の整え方を考える	・生活行為と住まいの空間の関係について考える。
3	11	わたしたちの消費生活	調理実習	・家族にはそれぞれ住まい方への思いや願いがあることに気づく。
	12		家庭内事故から家族を守る	・家族が気持ちよく住もうための工夫を考える。
				・室内の空気を清潔に保つ必要があることを理解する。
3	1	わたしたちの消費生活	災害に備えた安全な住まい方を考える	・野菜の調理上の性質を知り、工夫して野菜を調理することができる。
	2		消費者トラブルを防ぐ	・住まいの中には危険がたくさんあることを理解する。
			消費者を支える仕組みを知る	・家庭内事故を防ぐための工夫や対策を考える。
			3	
3	1	わたしたちの消費生活	災害に備えた安全な住まい方を考える	・自然災害への備え・対策を考える。
	2		消費者トラブルを防ぐ	・事業者と消費者には情報量や交渉力に格差があることを理解する。
			消費者を支える仕組みを知る	・中学生に身近な消費トラブルについて理解する。
			3	
3	1	わたしたちの消費生活	災害に備えた安全な住まい方を考える	消費者トラブルの解決方法と、解決のための行動の意味を理解する。
	2		消費者トラブルを防ぐ	
			消費者を支える仕組みを知る	
			3	

教科名	家庭	週時間数	0.5 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 技術・家庭 家庭分野 教育図書 副教材 技術・家庭分野 ワークノート 教育図書				

家庭科 の目標	・作品を制作し、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・生活を工夫し、創造する能力を身につける。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。	・定期テスト ・授業プリントやノートの記述 ・授業中の発言、観察 ・調理実習や裁縫等の実技
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、観察 ・ワークの記述（深めよう） （授業・単元のふりかえり） ・定期テスト
主体的に 学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	・授業中の発言、観察 ・プリント等の記述 ・ふりかえり
学習方法	・授業中は私語を慎み授業に集中し取り組もう。 ・ハンドノートを中心に学習しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	家庭生活と地域との かかわり	家族の一員としてできることを 考える 家族関係をよりよくする方法を 考える	・家庭や家族の基本的な働きを理解し、自分にできる家庭 の仕事を見つけ実践することができる。
	5		家庭生活と地域とのかかわりを 知る 地域の人々と、協力・協働する	・家庭にはそれぞれの立場や役割があることを理解する。 ・家庭生活は地域との関わりで成り立っていることを 理解する。 ・高齢者の一般的な身体の特徴を理解する。 ・地域の人とかかわるときのマナーや注意点を理解する。
	6		幼児の生活と家族	・自分の成長を振り返ることによって、家族や多くの人々 に支えられていることに気付くことができる。 ・幼児期の発達の特徴を知り、一人一人に個性があり、発 達には個人差があることに気づく。
	7		幼児の体の発達を知る 幼児の心の発達を知る 幼児の生活習慣の身につけ方を 知る 幼児の生活の特徴を知る	・幼児の基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の習得について 知る。個人差があることに気づく。 ・幼児期の食生活の特徴とおやつの必要性を理解する。 ・手作りおやつのよさを考える。 ・保育実習に行く際に持参するおもちゃを作る。 ・安全で幼児が興味を持てるおもちゃを作る。
2	9	幼児との関わり方についてまとめる	幼児の遊びと発達のかかわりを 知る	・幼児にとっての遊びの意義について理解できる。
	10		幼児の発達を支える大人の役割 を考える	・体験学習を通して、課題を持って幼児と直接関わるこ とができる。
	11		幼児とのかかわり方を考える 幼児とふれ合ってみよう 保育実習	・幼稚園の先生方のアドバイスを参考に幼児との関わりか たを工夫できる。 ・保育実習の感想と反省
	12		幼児との関わり方についてまと める	
3	1	消費者の権利と責任	消費生活が社会の与える影響に ついて知る	・自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響を理解で きる。
	2		環境に及ぼす影響を考えて行動す ることを知る	・エネルギー消費を減らす方法を考え、実践できる。 ・これからの生活を展望して、環境に配慮した生活を工夫する ことができる。
	3			

教科名	音楽	週時間数	1.3 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の音楽 I (教育芸術社) 副教材 中学生の器楽 (教育芸術社)				

音楽科 の目標	・曲想と音楽の構造などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。、	・筆記テスト ・実技テスト ・鑑賞
思考・判断・表現	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・筆記テストでの文章問題 ・実技テストでの創意工夫点 ・ふりかえり
主体的に 学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	・ふりかえり ・授業における学習態度 ・実技テスト ・筆記テスト
学習方法	・歌唱活動では、まずは自信をもって歌えるようになろう。その後、周りの音を聞いて音楽を楽しめるようになろう。 ・実技テストでは、大きな声で歌ってみよう。また、創意工夫したり、強弱記号をつけたりして歌えるようになろう。 ・授業でのワークを積極的に取り組もう。また、筆記テスト前に復習する習慣をつけよう。 ・鑑賞では、言葉で説明したり、根拠をもって説明したりして取り組むようになろう。 ・毎回の授業で、意欲をもって音楽を楽しむように心がけよう。 ・授業の活動をしっかりふりかえろう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	歌唱活動	オリエンテーション 「校歌」 「We'll Find the Way～はるかな道へ」	・美しい歌声で歌うための姿勢をとることができる。 ・曲の雰囲気に合った明るい声で歌うことができる。 ・曲の構成を感じとることができる。 ・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。
	5	楽典	「いろいろな記号」	・学習した曲の中に出てきた記号を理解することができる。
		歌唱活動	「校歌」 「君をのせて」	・堂々と歌うことができる。 ・パートを意識して歌うことができる。
	6	鑑賞	「魔王」	・音色やイメージを感じながら鑑賞することができる。
		実技テスト	「校歌」 「We'll Find the Way～はるかな道へ」	・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
		筆記テスト	期末テスト	
	7	歌唱活動	「ふるさと」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
2	9	歌唱活動	「ふるさと」 文化祭に向けて	・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。 ・休符や音符の長さを意識して歌うことができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。 ・歌詞に合った表現を考えて歌うことができる。 ・よりよい合唱にするために自分の意見を他の人に共有することができる。
	10			
			「浜辺の歌」 「赤とんぼ」	・曲の情景を浮かべながら歌うことができる。
	11	鑑賞	「雅楽 平調 越天楽」	・日本特有の音楽を味わって鑑賞することができる。
		実技テスト	「ふるさと」 「合唱コンクールの曲」	・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	12	筆記テスト	期末テスト	
		楽典	「いろいろな記号」	・学習した曲の中に出てきた記号を理解することができる。
3	1	歌唱活動	「卒業式の曲」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・別れの思いを込めて歌うことができる。
	2	鑑賞	「春」	・音楽の特徴に注目し、情景を思い浮かべて聴くことができる。
		筆記テスト	期末テスト	
	3	鑑賞	「六段の調」	・箏曲のよさや美しさを味わうことができる。

教科名	音楽	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の音楽 2・3 上 (教育芸術社) 副教材 中学生の器楽 (教育芸術社)				

音楽科 の目標	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 ・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	・筆記テスト ・実技テスト ・鑑賞
思考・判断・表現	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・筆記テストでの文章問題 ・実技テストでの創意工夫点 ・ふりかえり
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、親しんでいく態度を養う。	・ふりかえり ・授業における学習態度 ・実技テスト ・筆記テスト
学習方法	・歌唱活動では、まずは自信をもって歌えるようになろう。その後、周りの音を聞いて音楽を楽しめるようになろう。 ・実技テストでは、大きな声で歌ってみよう。また、創意工夫したり、強弱記号をつけたりして歌えるようになろう。 ・授業でのワークを積極的に取り組もう。また、筆記テスト前に復習する習慣をつけよう。 ・鑑賞では、言葉で説明したり、根拠をもって評価したりして取り組むようになろう。 ・毎回の授業で、意欲をもって音楽を楽しむように心がけよう。 ・授業での活動をしっかりふりかえろう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	歌唱活動	オリエンテーション 「校歌」 「翼をください」 「歓喜の歌」	・美しい歌声で歌うための姿勢をとることができる。 ・曲の雰囲気にあった明るい声で歌うことができる。 ・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・曲の強弱を意識して歌うことができる。
	5	楽典 歌唱活動	「いろいろな記号」 「やさしさに包まれたなら」	・学習した曲の中に出てきた記号を理解することができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。
	6	鑑賞 実技テスト 筆記テスト	「フーガ ト短調」 「翼をください」 期末テスト	・曲の構成を感じながら鑑賞することができる。 ・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	7	歌唱活動	「ふるさと」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
	9	歌唱活動	「ふるさと」	・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。 ・休符や音符の長さを意識して歌うことができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。 ・歌詞に合った表現を考えて歌うことができる。 ・よりよい合唱にするために自分の意見を他の人に共有することができる。
	10		文化祭に向けて	
	11	鑑賞	「交響曲第5番 ハ短調」	・曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わって聴くことができる。 ・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
2	12	実技テスト 筆記テスト 楽典 歌唱活動	「ふるさと」 「合唱コンクールの曲」 期末テスト 「いろいろな記号」 「卒業式の曲」	・学習した曲の中に出てきた記号を理解することができる。 ・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
	1	歌唱活動	「卒業式の曲」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・別れの思いを込めて歌うことができる。
	2	鑑賞	「アイーダ」から 歌舞伎「勧進帳」	・総合芸術であるオペラと歌舞伎を聴き比べることができる。
		筆記テスト	期末テスト	
	3	歌唱活動	「島唄」	・音の重なりを理解して歌うことができる。
3				

教科名	音楽	週時間数	1 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の音楽 2・3 下 (教育芸術社) 副教材 中学生の器楽 (教育芸術社)				

音楽科 の目標	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 ・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	・筆記テスト ・実技テスト ・鑑賞
思考・判断・表現	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・筆記テストでの文章問題 ・実技テストでの創意工夫点 ・ふりかえり
主体的に 学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、親しんでいく態度を養う。	・ふりかえり ・授業における学習態度 ・実技テスト ・筆記テスト
学習方法	・歌唱活動では、まずは自信をもって歌えるようになろう。その後、周りの音を聞いて音楽を楽しめるようになろう。 ・実技テストでは、大きな声で歌ってみよう。また、創意工夫したり、強弱記号をつけたりして歌えるようになろう。 ・授業でのワークシートを積極的に取り組もう。また、筆記テスト前に復習する習慣をつけよう。 ・鑑賞では、言葉で説明したり、根拠をもって評価したりして取り組むようになろう。 ・毎回の授業で、意欲をもって音楽を楽しむように心がけよう。 ・授業での活動をしっかりふりかえろう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	歌唱活動	オリエンテーション 「島唄」	・美しい歌声で歌うための姿勢をとることができる。 ・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・強弱を意識して歌うことができる。
	5	楽典 歌唱活動	「いろいろな記号」 「花」	・学習した曲の中に出てきた記号を理解することができる。 ・曲の情景を浮かべながら歌うことができる。
	6	鑑賞 実技テスト 筆記テスト	「ブルタバ」 「校歌」 「花」 期末テスト	・曲の構成を感じ、情景を浮かべて鑑賞することができる。 ・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	7	歌唱活動	「ふるさと」 「花は咲く」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
	9	歌唱活動	「ふるさと」	・自身をもって歌うことができる。 ・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。
	10		文化祭に向けて	・休符や音符の長さを意識して歌うことができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。 ・歌詞に合った表現を考えて歌うことができる。 ・よりよい合唱にするために自分の意見を他の人に共有することができる
	11	鑑賞 実技テスト 筆記テスト	「能」「歌舞伎」「文楽」 「合唱コンクールの曲」 期末テスト	・日本特有の音楽を聴き比べて、それぞれの表現の特徴やよさを感じとることができる。 ・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
2	12	歌唱活動	「卒業式の曲」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
	1	歌唱活動	「卒業式の曲」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・感謝の気持ちを込めて歌うことができる。
	2	鑑賞	「ボレロ」	・楽器の音色に親しみながら、オーケストラの響きを聴くことができる。
3	3		「著作権」	・音楽の権利について理解することができる。

教科名	美術	週時間数	1.3 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書「美術 I」 光村図書 副教材 「美術資料」 秀学社				

美術科 の目標	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ・自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 ・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	
評価について		
※ 美術は、制作が長期間に渡るものがあり、各学期の成績は、題材の時間・内容などを考慮し、評価します。また、長期間に渡る題材の制作終了と、各学期の評価のタイミングが合わないため、学年末の成績は、単純に各学期の成績を平均したものとはなりません。1年間の学習活動を俯瞰し、題材の時間・内容・学習の深まりなどを考慮して、評価します。		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身につけ、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表す力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 ・テスト
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練る力。 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を広げたりする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。 ・鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 ・テスト
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 ・テスト
学習方法	・積極的に制作に取り組み、独自性を大切にしながら、こだわりをもって自分の表現を追求しよう。 ・チャイム着席、作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み、根気よく制作に集中しよう。 ・制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことが出来るようにしよう。 ・芸術や美術に興味を持ち、芸術作品を見る機会を持とう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション	きれいと美しい	美しいものを美しいと思える力を身に着ける。
	5	平面構成 ・レタリング	レタリングの基礎基本 色相環から色の学習	目的に応じてデザインされた文字の特徴を、形や色彩、構成などに着目して捉えることができる。 対象から受けるイメージをもとに、主題を見つけ、効果的な構想を練る。
	6	・色彩について ・構成を考える	身近なものを平面構成する	自分の考えや見方を大切にして、デザインの構想を練ったり、作品を鑑賞したりする活動に楽しく取り組む。
	7	ポスター制作に向けて	ポスターの基本	自分のアイデアを工夫しながら形にすることができる。 形のとり方やポスターの塗り方が理解できる。 たくさんのアイデアを出そうとしている。
2	9	体育館シューズのデッサン	デッサンの基礎・基本 鉛筆の線を塗り重ねて段階的に色を塗り分ける。 ・鉛筆の種類・使い方 ・明暗の捉え方 ・質感や量感の表現	細部まで描写し、質感の違いを描き分けることができる。 しっかりと観察し、特徴を捉え、的確に表現することができる。 表現方法を工夫して、材質感を表現することができる 自分の感じたことを工夫して表現して、描き方、構図に独創性がある。 体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 制作に集中力を持続することができる。
	10			
	11			
3	12			
	1	鑑賞	「風神・雷神像」 「風神雷神図屏風」など	屏風の構図、彫刻の表情、動きの効果や、造形的な特徴を基に、日本の美術文化の特徴を全体のイメージや作風で捉えることを理解できる、 風神雷神のテーマにした作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、それぞれの作品の共通点や違いについて考え、日本の美術文化についての見方や感じ方を広げる。 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく日本の美術文化を鑑賞する学習活動に取り組むことができる。
	2			
	3			

教科名	美術	週時間数	1 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書「美術2・3」光村図書 副教材 「美術資料」秀学社				

美術科 の目標	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 ・自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	
評価について		
※ 美術は、制作が長期間に渡るものがあり、各学期の成績は、題材の時間・内容などを考慮して、評価します。また、長期間に渡る題材の制作終了と、各学期の評価のタイミングが合わないため、学年末の成績は、単純に各学期の成績を平均したものとはなりません。1年間の学習活動を俯瞰し、題材の時間・内容・学習の深まりなどを考慮して、評価します。		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表す力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 テスト
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩の構成などの効果を生かし、心豊かで独創的な表現の構想を練る力 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。 ・鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 テスト
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。 テスト
学習方法	・積極的に制作に取り組み、独自性を大切にしながら、こだわりをもって自分の表現を追求しよう。 ・チャイム着席、作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み、根気よく制作に集中しよう。 ・制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことが出来るようにしよう。 ・芸術や美術に興味を持ち、芸術作品を見る機会を持とう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション	きれいと美しい	美しいものを美しいと思える力を身に着ける。
	5	エンブレムのデザイン	モノグラム エンブレム製作	形や色彩などが見る人に与える効果や、造形的な特徴を基に、伝わりやすくわかりやすいデザインを全体のイメージで捉えることができる。 モノグラムやエンブレムの情報をわかりやすく伝えるデザインの洗練された美しさを感じ取り、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝える内容や目的、わかりやすさなどを考えて、デザインする表現の活動に取り組むことができる。
	6			
	7	ポスター制作に向けて	ポスターの基本	表現の思いやイメージに応じてさまざまな技能や造形感覚を生かし、工夫しながら美しく個性的に表現することができる。 表現意図に基づき機能を考えて感性豊かな発想をし、かたちや色の構成などを工夫して、美しい表現の構想をふかめることができる。 ポスターに関心を持ち、喜びをもって積極的に表現することができる。
2	9	鑑賞	ジャポニスム	作品からよさや美しさ、意図と工夫などを感じとることができる。 ジャポニスムの時代の作品を鑑賞し、その魅力を発見することができる。
	10			
	11	デッサン	体育館シューズを描く 鉛筆の線を塗り重ねて段階的に色を塗り分ける。 ・鉛筆の種類・使い方 ・質感や量感の表現 ・立体感の描き方	表現に必要な技法を理解し表現することができる。 しっかりと観察し、特徴を捉え、的確に表現することができる。 自分の感じたことを工夫して表現できる。 自分の感じたことを工夫して表現して、描き方、構図に独創性がある。
	12			最後まで集中して取り組むことができる。 制作に集中力を持続することができる。
3	1	レタリング 文字のデザイン	文字のデザイン いくつかアイディアを出す ・文字の意味や文字に込めた思いなどを考えてデザインする。	表現の思いやイメージに応じてさまざまな技能や造形感覚を生かし、工夫しながら美しく個性的に表現することができる。
	2		いくつかのアイディアの中から自分のデザインしやすい漢字を一文字選び、清書する。	表現意図に基づき機能を考えて感性豊かな発想をし、かたちや色の構成などを工夫して、美しい表現の構想をふかめることができる。
	3		グループで自分の作品を紹介すると共に、お互いの作品のよさを見つける。	自分なりのイメージからデザインを表現し、その喜びを味わおうとしている

教科名	美術	週時間数	1 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書「美術2・3」光村図書 副教材 「美術資料」秀学社				

美術科 の目標	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 ・自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	
評価について		
※ 美術は、制作が長期間に渡るものがあり、各学期の成績は、題材の時間・内容などを考慮して、評価します。また、長期間に渡る題材の制作終了と、各学期の評価のタイミングが合わないため、学年末の成績は、単純に各学期の成績を平均したものとはなりません。1年間の学習活動を俯瞰し、題材の時間・内容・学習の深まりなどを考慮して、評価します。		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表す力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩の構成などの効果を生かし、心豊かで独創的な表現の構想を練る力 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。 ・鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
学習方法	・積極的に制作に取り組み、独自性を大切にしながら、こだわりをもって自分の表現を追求しよう。 ・チャイム着席、作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み、根気よく制作に集中しよう。 ・制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことが出来るようにしよう。 ・芸術や美術に興味を持ち、芸術作品を見る機会を持とう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション	きれいと美しい	美しいものを美しいと思える力を身に着ける。
	5	鑑賞	ゲルニカ	ゲルニカに描かれた主題について考え、表現の思いやイメージの多様な見方や感じ方
	6		ポスターの基本	戦争や暴力への批判がどのように表現されているかを読み取る 色や形、構図などの視覚的要素が感情やメッセージに与える影響を考える。 自分の考えたことや感じたことを他者と共有し、多様な見方を知る。
	7	ポスター制作に向けて		自分のアイデアを工夫しながら形にすることができる。 形のとり方やポスターの塗り方が理解できる。 たくさんのアイデアを出そうとしている。
2	9	平和を訴える絵	平和を訴える絵(表現)	・表現の思いやイメージに応じてさまざまな技能や造形的な知識・感覚を生かし、試行錯誤を繰り返しながら、美しく独創的に表現する力を育てる。 ・平和学習を通して学んだ知識や培った思いを元に地域に発信したいメッセージを考え、かたちの構成などを工夫して、美しく個性的な表現の構想をする力を育てる。 ・自身の活動を的確に検証すると共に、自他の作品を鑑賞し、よさや美しさ、意図と工夫などを感じとったり味わったりする力を育てる。 自分が作品に込めたい意図が鑑賞者の中でどのようにイメージが広がるかを想像しながら表現を吟味し創り上げることやそれを鑑賞することに喜びをもって積極的に取り組む態度を育てる。
	10			
	11	ポップアップカード	ポップアップカードの基礎	・試行錯誤しながらポップアップの技術を理解・習得し、美しく個性的に表現する力を育てる。 ・自分の表現世界を豊かに発想し、自分の思いにふさわしいかたちや色、材料、表現方法など自己表現の構想を深める力を育てる。 ・ポップアップの表現に深い関心や意欲を持ち、自分の思いを積極的に表現しようとする態度を育てる。
3	12			
	1	ポップアップカード	思いを伝えるメッセージカード	・表現の思いやイメージに応じてさまざまな技能や造形的な知識・感覚を生かし、表現過程でさらに創造的に試行錯誤しながら思いの伝わる自分らしい表現を追求し、美しく個性的・創造的に表現する力を育てる。 ・受け取り手がどのように感じるかをいろいろな角度から考慮し、じぶんの思いにあったメッセージカードを想像力豊かに構想をする力を育てる。 ・自分の思いを色や形によって人に伝えることに喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。
	2			
	3	アートゲーム	〇×クイズ	・美術作品や文化遺産としての絵画や彫刻などに親しみ、それらを理解すると共に、自分の味わい方を大切にして主体的に感じとったり、味わったりする力を育てる。 ・解答を考えながら、対象のよさや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に鑑賞する力を育てる。

教科名	保健体育	週時間数	3 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書「中学保健体育」Gakken 副教材「中学保健学習ノート」正進社				

保健体育科の目標	・ 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・ 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けることができる。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード
思考・判断・表現	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができる。	・ 定期テスト ・ 学習カード ・ 観察
主体的に学習に取り組む態度	【体育分野】 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組むことができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組むことができる。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード ・ 観察
学習方法	・ 準備運動では集団行動をキビキビおこない発声も大切にできる。列を揃え、背筋を伸ばしランニングをする。また、ストレッチ体操では元気よく発声し、ポイントを理解して取り組む。 ・ 普段の授業では、めあてを理解し取り組むことかできる。また、ふりかえりではめあてに対して自分の考えを学習カードに記述する。 ・ 実技テストでは、課題に応じて自分の力を発揮する。 ・ 定期テスト前には、保健分野・体育分野ともに復習する習慣をつける。 ・ 毎回の授業で、意欲をもって保健体育に親しむように心がける。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	○体育理論	・オリエンテーション	・運動やスポーツは、多様な必要性や楽しみがあることを理解することができる。
		○体づくり運動	・集団行動 ・新体力テスト	・集団としての活動の進め方や動きを理解することができる。
	5	○球技	・バレーボール	・今の自分の体力の実態を知り、課題を見つけ、体力を高めるための運動や練習の仕方を考えることができる。
	6 7	○陸上競技 ●食育 ●健康な生活と病気の予防①	・短距離走（リレー） ・走り高跳び ・食育 ・健康の成り立ち 運動と健康 食生活と健康 休養・睡眠と健康 調和のとれた生活	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力し技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。 ・フェアプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりすることができる。 ・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上、記録の向上を目指す。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・病気や健康にはどんなことが関わっているか理解できる。 ・健康のためには食生活でどんなことに気を付ける必要があるか理解できる。 ・健康のためには休養・睡眠をどのようにとればよいか理解することができる。
2	9	○体づくり運動	・体づくり運動	・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上を目指す。
	10	○武道	・剣道	・積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を習得することができる。
	11	○器械運動	・マット運動	・積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとするができる。
	12	○陸上競技 ●食育 ●心身の発達と心の健康	・持久走 ・食育 ・体の発育・発達 ・呼吸器・循環器の発達 ・生殖機能の成熟 ・性とどう向き合うか	・自分に適した目標を設定し、自分に合ったペースを守り一定の距離を走ることができる。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・体の各器官はどのように発育・発達するのか理解することができる。 ・呼吸器や循環器はどのように発達するのか理解することができる。 ・思春期の体の変化や生殖機能の成熟について理解することができる。 ・思春期の性意識の変化や、性情報に対する適切な行動を考え理解することができる。
3	1	○ダンス	・現代的なリズムのダンス	・リズムの特徴をとらえ、音楽に合わせてステップや動きを組み合わせて、みんなでリズムに乗って全身で踊る楽しさや喜びを味わうことができる。
		○球技	・バスケットボール	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力し技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
	2	●食育 ●心身の発達と心の健康	・食育 ・心の発達（１）（２）	・フェアプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たしたりする。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・知的機能・情意機能・社会性の発達の様子を、理解することができる。
	3	●スポーツの多様性	・自己形成 ・欲求不満やストレスへの対処 ・スポーツの始まりと発展 ・スポーツへの多様な関わり方 ・スポーツの多様な楽しみ方	・自分自身を見つめ、自己形成に向けて、生き方を考え理解することができる。 ・心と体の関わりについて、考え理解することができる。 ・欲求・欲求不満・ストレスへ対処する方法について、考え理解することができる。 ・スポーツはどのようにして始まり、どのように発展してきたのか理解できる。 ・スポーツへの関わり方にはどんなものがあるか理解できる。 ・スポーツには、様々な楽しみ方や楽しむための工夫があることについて理解できる。

教科名	保健体育	週時間数	3 時間	学年	2 年
使用教科書 副教材等	教科書「中学保健体育」Gakken 副教材「中学保健ノート」正進社				

保健体育 科の目標	・ 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・ 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けることができる。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード
思考・判断・表現	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができる。	・ 定期テスト ・ 学習カード ・ 観察
主体的に 学習に 取り組む 態度	【体育分野】 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード ・ 観察
学習 方法	・ 準備運動では集団行動をキビキビおこない発声も大切にできる。列を揃え、背筋を伸ばしランニングをする。また、ストレッチ体操では元気よく発声し、ポイントを理解して取り組む。 ・ 普段の授業では、めあてを理解し取り組むことかできる。また、ふりかえりではめあてに対して自分の考えを学習カードに記述する。 ・ 実技テストでは、課題に応じて自分の力を発揮する。 ・ 定期テスト前には、保健分野・体育分野ともに復習する習慣をつける。 ・ 毎回の授業で、意欲をもって保健体育に親しむように心がける。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	○体育理論	・オリエンテーション	・運動やスポーツが心身の発達に与える効果、健康・安全について理解することができる。
	5	○体づくり運動	・集団行動 ・新体力テスト	・集団としての活動の進め方や動きを理解することができる。
	6	○球技 ○陸上競技	・バレーボール ・短距離走（リレー） ・走り高跳び	・今の自分の体力の実態を知り、課題を見つけ、体力を高めるための運動や練習の仕方を考えることができる。
	7	●食育 ●健康な生活と病気の予防②	・食育 ・生活習慣病とその予防 ・がんとその予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
2	9	○体づくり運動	・体づくり運動	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して体力の向上を目指す。
	10	○球技	・ソフトボール	・競争する楽しさや仲間と協力する大切さに気づくことができる。
	11	○器械運動	・跳び箱 （マット運動）	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
	12	○陸上競技 ●食育 ●傷害の防止	・長距離走（持久走） ・食育 ・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因 ・交通事故の防止 ・犯罪被害の防止 ・自然災害に備えて ・応急手当の意義と基本 ・心肺蘇生法 ・きずの手当て	・フェアなプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうしたりする。
3	1	○陸上競技	・長距離走（持久走）	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
	2	○球技	・サッカー	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して、技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
	3	●食育 ●スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	・食育 ・スポーツが心身と社会性に及ぼす効果 ・スポーツの学び方 ・スポーツの安全な行い方	・フェアなプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうしたりする。

教科名	保健体育	週時間数	3 時間	学年	3 年
使用教科書 副教材等	教科書「中学保健体育」Gakken 副教材「中学保健体育の学習」Gakken				

保健体育 科の目標	・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・実技テスト ・学習カード
思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	・定期テスト ・学習カード ・観察
主体的に 学習に 取り組む 態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・定期テスト ・実技テスト ・学習カード ・観察
学習 方法	・準備運動では集団行動をキビキビおこない発声も大切にしよう。背すじを伸ばしてランニングしよう。 また、ストレッチ体操では元気よく発声し、ポイントを理解して取り組むようにしよう。 ・ふだんの授業ではめあてを理解し取り組もう。また、ふりかえりではめあてに対して自分の考えを学習カードに記述するように意識しよう。 ・実技テストでは、課題に応じて思い切りやってみよう。 ・定期テスト前には保健分野・体育分野ともに復習する習慣をつけよう。 ・毎回の授業で、意欲をもって保健体育に親しむように心がけよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	○体育理論	オリエンテーション	・体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。
		○体づくり運動	集団行動	・集団としての活動の進め方や動きについて、理解し行動できる。
	5	○球技	新体力テスト バドミントン	・今の自分の体力の実態を知り、課題を見つけ、体力を高めるための運動や練習の仕方を考えられる。
	6	○陸上競技	短距離走(リレー) 走り高跳び	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力できる。
	7	●食育	環境の変化と適応能力	・フェアなプレイを守り、分担した役割を果たすことができる。
		●健康と環境	活動に適した環境 室内の空気の条件 水の役割と飲料水の確保 生活排水の処理	・「食」に関する知識を身につける。 ・環境は健康にどのような影響を及ぼすのか等を理解できる。 ・理解した事柄を記述して表現できる。
2	9	○体づくり運動	体づくり運動	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力して技能の習得・向上を目指すことができる。 ・競争する楽しさや、仲間と協力する大切さに気づき、そのことを記述して表現できる。 ・「食」に関する知識を身につけ、「食」を選択する力を身に付ける。 ・どのようにして環境を保全していったらよいのかを理解できる。 ・感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の利用、健康のための社会的な取り組みについて理解できる。 ・自分に適した目標を設定し、自分に合ったペースを守り一定の距離を走ることができる。
		○球技	サッカー バスケットボール ハンドボール	
	10	●食育	ごみの処理	
		●健康と環境	環境の汚染と保全 感染症とその予防	
	11	●健康な生活と病気の予防	性感染症とその予防 保健・医療機関の利用	
		○文化としてのスポーツ	医薬品の有効利用 ともに健康に生きる社会	
	12	○陸上競技	長距離走	
3	1	○選択体育	【屋内】バドミントン・バスケットボールなど	・フェアなプレイを守ったり、分担した役割を果たしたりできる。
	2		【屋外】サッカーなど	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて協力して技能を習得し連携した動きで攻防できる。
	3			